

来年の議案にそのまま使える背景・目的

背景 認知を理解へ転換する

日本では10代から20代の投票率が低く、若者の投票率が低迷している現状があります。その原因は、若者が日常的に現状の課題から未来の日本を考える機会がないことにあります。若者自身が国の主権者として自発的に行動できる環境を整え、将来に希望を持てる社会を実現するために、地域で主権者教育に取り組むことができる状態にする必要があります。

目的 地域を動かす主権者育成アクション

地域の学生や若者が自ら社会課題を発見し、政策を立案・発表する場をつくることで、若者の主権者意識を変えることを目的とします。

運動手法

①各地域での政策甲子園の開催

地域の学校と連携し、独自に政策甲子園を開催します。地域の学生や若者が社会課題を自ら発見し、政策を立案・発表する場を自分たちの手でつくります。開催にあたっては、メールでの概要情報の周知、県の教育委員会への後援依頼、電話による探究学習担当教員へのアプローチ、校内掲示板へのポスター掲示、プレスリリースやSNSでの発信を通じて、地域の学生や若者に政策甲子園を届けます。

②例会を活用した政策甲子園の周知・認知向上

LOMが既に取り組んでいる青少年育成事業に政策甲子園を新たな柱として位置づけ、まずは例会の場で会員への周知を行います。例会では、政策甲子園を主催する意義、地域の学校との連携の進め方、過去出場校の高校生事例紹介などを通じて、会員が政策甲子園を自分のLOMの事業として理解する機会を創出します。例会での共通理解を出発点として、青少年育成事業と政策甲子園を一体的に展開することで、LOMの事業の幅が広がり、地域への影響力も高まります。

どんなLOMに向いてる？

挑戦の芽はあるが、行動や連携につながりきっていないLOM

本運動は、主権者教育に本気で取り組もうとしているLOMにフィットする運動です。若者の政治離れにLOMとして向き合いたい、主権者教育を事業の柱に据えたいが何から始めればよいかわからない、地域の学校・教育委員会との連携を深め信頼ある関係を築きたい、そんな想いを持つLOMにこそ本運動は応えます。政策甲子園は、学生や若者が地域の社会課題を自分ごととして捉え、政策として発信するプロセスそのものが主権者教育の実践となる事業であり、LOMが旗振り役となることで、地域に主権者意識を持った若者を育てる拠点が生まれます。

この運動をするとあなたの地域はどう変わる？

社会課題が共有され、主権者意識が育まれる地域になる

本運動を通じて、若者が地域の中で主体的に行動する機会が広がり、地域が人財育成の拠点として機能します。その結果、地域全体で社会課題を自分ごととして捉える意識と主権者意識が向上し、持続可能な地域社会へと変わります。

Point 運動構築におけるアドバイス

- 学校へのアプローチにおいては、「主権者教育のプログラムがあります」ではなく、「御校の探究学習の時間に活用できる実践型のプログラムがあります」という切り口で伝えることで、学校側の間口が広がります。
- 各学校のディベート部、課題研究、探究活動を積極的に行っている部活動等の有無を調査し、関心の高い学校から優先的にアプローチします。
- 政策甲子園に取り組むことで、青少年育成事業との連動、学校・教育委員会との連携強化、地域貢献の可視化とブランド向上が同時に実現できます。

